

市民活動情報

北海道立市民活動促進センターは、地域社会のニーズに的確に応えようとする NPO などの道内の市民活動を応援しているセンターです。

特集

「NGOってなあに？」

よく聞くけど「NGO」って、なんだろう？ 「NPO」とどう違うの？

NGO（エヌ・ジー・オー）とは、英語の Non-Governmental Organization の略称で、直訳すると「非政府組織」を意味します。国連が政府以外の民間団体との協力関係を定めた国連憲章第 71 条の中で明文化されてから、次第に使われるようになりました。国連の経済社会理事会（Economic and Social Council: ECOSOC）との協議資格を持つ NGO の中には、営利団体や政党などを除いて、経営者団体、社会福祉団体、宗教団体、消費者団体、職能団体、女性団体、青少年団体、平和団体、労働組合、協同組合など様々な民間の非営利団体が含まれています。もともとは、このように国連との協力関係にある団体を指して、NGO と言っていたのが始まりです。しかし今日では、経済社会理事会との協議資格やその他の国連機関との協力関係の有無に関係なく、開発問題、人権問題、環境問題、平和問題など地球的規模の諸問題に、「非政府」かつ「非営利」の立場からその解決に取り組む市民主導の国際組織及び国内組織を「NGO」と総称するのが、より一般的になりました。また、それぞれの団体が取り組む課題領域に応じて、開発 NGO、人権 NGO、環境 NGO、軍縮（平和）NGO などと便宜的に呼称することもあります。

NGO という言葉は、「特定非営利活動促進法」（一般的に言う NPO 法）が 1998 年に施行される前から使われてきた言葉ですが、「特定非営利活動促進法」が施行されてからは、マスコミ等が「NPO」（Non-Profit Organization＝非営利組織）という用語を積極的に使うようになり、「NGO」と「NPO」の違いについての解釈をめぐっても混乱をきたしました。これについては、現在でも様々な解釈がなされていますが、どちらも政府からも企業からも独立した存在（組織の方針や政策など独立した意思決定ができるという意味）で、共通の立場に立っています。

ただ、前述のように「NGO」は国連用語から出てきて、政府を意識して活動する傾向があるのに対し、「NPO」は企業等の営利団体を意識して「非営利」に力点を置いているというニュアンスの違いがあります。また日本では、これらの言葉がともに外国から入ってきた経緯から、「NGO」は「国際協力の活動を行う団体」、「NPO」は「地域社会で福祉活動などを行う国内団体」という意味で使われる傾向にあるようです。しかし「NGO」も「NPO」の中の 1 つの形態であると言え、法人格を取るために「NPO 法人」の道を選ぶ「NGO」も少なくありません。今の社会情勢に照らし合わせて一般的に言うと、いろいろな活動分野が分かれる NPO の中で、「国際協力を活動の目的とする NPO」のもう一つの呼称が「NGO」である、と言えるでしょう。

そこで今回は NGO の団体ってどんなことしているのか、地域でがんばっている団体に会ってきました。（次頁へ）

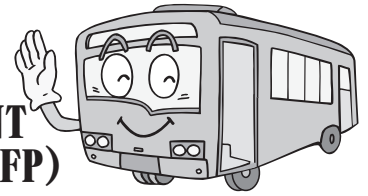
「フィリピン耳の里親会」



(フィリピンの教育者が旭川
聾学校で研修した時の様子)

JAPAN EAR FOSTER PARENT (JEFP)

取材の顛末記



フィリピン耳の里親会

〒070-0825 旭川市北門町19丁目2155-165

TEL&FAX 0166-55-9654

URL: <http://homepage2.nifty.com/jefp/>

11月初旬の旭川へ。札幌に比べて幾分温度は低い。コートなしではとても街をあるけそうにもない。買物公園にあるデパートの横からバスがでる。駅を背にしてバスは西へ西へと20数分で目的地へ。そこから徒歩で5分くらいの所に目指す事務所はあった。木造の2軒長屋の前に団体の看板。事務所というより一般住宅、それも昔の炭鉱住宅の風情。中に入ると事務局の中泉 順子さん(理事長の奥様)がにこやかに迎えてくれた。

フィリピンはカトリックの国で7,000を越える島からなる国。人口は約8,000万人。義務教育制度はない。貧富の差が激しく、日本に対しては比較的フレンドリー。

活動のきっかけは1991年にフィリピンの聴覚障害児教育関係者が札幌聾学校を視察した際に、古くなった教育機器の寄贈依頼があった。これを契機に翌年6月、札幌や旭川の聾学校関係者などを中心にフィリピンの聴覚障害児を援助する目的でこの会は設立された。1992年にフィリピンのセブ市で現地の聾学校教員、保護者、行政担当者、教育関係者を対象に早期教育や聴覚・口話(こうわ)法の重要性や効果についての第1回教育セミナーを開催。翌1993年、現地の聾学校教員を日本へ招聘して2ヶ月間、教育機器の使用の実習や施設見学、講義等の研修をした。同時に貧困などで聾学校へ通えない子ども達への就学援助として里親制度を開始。

聴覚障害者は手話で対話すると思いがちだが、それは言語習得していればの話で、言語習得していない乳幼児は口話で指導することが話す・聞く力を発達させる上で効果的な方法。そして、出来るだけ早くその子にあった補聴器をつけさせることが急務である。補聴器は1個8万~20万円。検査機器は1台250万円(デンマーク製)もするので、寄贈して頂くとありがたい。また、国際援助、国際協力といってお金を寄付したり、物を贈るだけではだめで、技術を伝えることで自立を促すことが大事です、と話されていた。

「フィリピン耳の里親会」の活動は4つからなる。

- ① 里親制度(奨学金制度)(里子はマニラ市を含め5地域に55名)
フィリピンでは、0~12歳の児童の100人に1人が聴覚障害を持っており、そのうち貧困などが理由で20%弱の子どもしか学校に通っていない。フィリピンでは、36,000円(奨学金)あれば1年間学校に通うことができ、この中には、授業料、寮費、交通費、制服代等が含まれる。縁組が決まるとクリスマスや誕生日、バレンタインデーには、里親・里子間でカードや手紙による心の通った交流をしている。手紙やカードの翻訳は里親会事務局で行っている。
- 里親会費納入方法
 - ・里親会員 39,000円(36,000円(奨学金)+3,000円(会費))
郵便局に「ばるる」の口座を開き、12月、3月、6月、9月の年4回に分けて引き落とされる
 - ・一般会員 個人:年間3,000円、法人:年間10,000円を郵便振替にて振込
- ② 現地セミナー(12年間で9回開催)
聾教育には、先生をはじめ家族にも理解が必要。そのため日本から専門家が現地に行き、セミナーを開催している。
- ③ 招聘研修(12年間で18名の招聘)
聴覚障害児教育に携わる現地教師の日本での研修。約2ヶ月間滞在して、聾学校での研修、補聴器を使っての指導方法から検査方法まで様々な研修を行っている。現地教師は里親会の現地駐在員も兼ねている。
- ④ 教育機器の寄贈(12年間で6地域に補聴器400台以上)
補聴器をつけて教育を始めると音の世界が広がる。これは危険から身を守ったり言葉を覚えたりするのにとても大切なこと。でも補聴器はとても高価な物(物価は日本の十分の一なのに補聴器の価格は同額)。日本で中古の補聴器を集め、整備して贈っている。また、聴力検査装置等も贈り補聴器を有効活用している。

この会は、会計報告と現地レポートを載せたニュースレターを会員に毎回送る。そんな地道で確かな活動を続けている。

そして、どこの団体でも会の運営はきびしいが、寄付金、書き損じハガキ、未使用テレホンカード、未換金宝クジ、フリーマーケット売上金、チャリティゴルフコンペの収益金など、少しずつの積み重ねで何とかやりくりをしている。

また、里子へのクリスマスカード作りなどには、ボランティアの協力をいただいております、そのボランティアの輪が少しずつ広がっています。(只今、翻訳ボランティア募集中)。

「2006年に現地セミナーで10年振りにセブ市に行きます。この時のスタッフを今から募集していますので、参加しませんか。あと、20年は頑張ります」と、前出の中泉さん。「札幌で開催している国際協力フェスタ、NGO屋台村にも参加している」と聞いたので、今度行って見ようと思う。「北の大地の片隅でこんなにも頑張っているNGOがあるなんて」……感慨無量……。

NGOって、思ったよりも身近なもの。 詳しく知りたいと思ったときには、どうすれば良いのだろう？

一口に NGO と言っても、たくさんの活動内容があります。国際協力だからといって、海外へ行くことだけが協力は
ありません。ここでは、具体的にどんな活動があるのかご紹介しましょう。

- ①「人材派遣型」……教育、農業、保健医療、地域振興などさまざまな分野で、現地に人材を派遣している団体。
- ②「カウンターパート支援型」……現地の NGO や福祉団体などに資金提供・物資供給などを行っている団体。
- ③「国内研修型」……海外から人を招聘し、研修や交流を実施している団体。
- ④「在日・滞日外国人支援型」……日本国内にいる外国人に対して、教育、医療、福祉などのサービスを提供する団体。
- ⑤「アドボカシー型」……世界各地で起きている問題の情報を収集し、その情報を広く提供するとともに、政府や企業に対し
て政策提言や問題提起などを行なう団体。
- ⑥「開発教育・国際理解教育型」……日本国内の学校教育や社会教育の中で、開発、環境、人権などの問題に取り組んでいこ
うとする団体。
- ⑦「フェアトレード型」……現地でつくられた手工芸品や食品を公正な価格で買い上げることで、生産者の生活や文化を支え
るとともに、国内では相手国の理解を深めることを進める団体。

また、NGO の中間支援センター的な役割を果たす「北方圏センター」や「札幌国際プラザ」などを利用すると、広く
様々な知識が得られます。HP 上でも直接来館しても、様々な NGO の連絡先や情報が得られると思います。

しかし、やはり実際に活動している団体に接して会話し、活動に参加することに勝るものはないだろうと思います。

北海道内では、様々な NGO 団体が活動しネットワークを組んでいます。国際協力の団体が主催するイベントなどに
参加してみる、連絡を取って事務所に行き活動内容を聞いてみるなど、具体的に行動を起こすことがより詳しく NGO
を知ることになります。当センターにも NGO 活動をしている相談員がおります。生の声を聞くことができますので、
ぜひ来館・電話でのご相談をお待ちしています。

『北方圏センター』札幌市中央区北 3 条西 7 丁目（道庁別館 12 階） TEL：011-221-7840

『札幌国際プラザ』札幌市中央区北 1 条西 3 丁目（札幌 MN ビル 3 階） TEL：011-211-3670

情報スクランブル

◆一クリスタルボウルとピアノの調べー

LOVE&PEACE そして……“夢”◆

内 容：第一部は水晶の癒しのエネルギーを放つ楽器のクリスタル
ボウルサウンド、第二部は夢をテーマとしたピアノ曲をお
届けします。

日 時：平成16年12月12日(日)15:00～16:30

場 所：札幌市男女共同参画センター
(札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ3F)

参加費：1,800円(前売り1,500円)、高校生以下1,300円

連絡先：NPO法人 こころの郷(さと)
TEL.011-613-5567 FAX.011-771-1045

URL：http://www.36.tok.2.com/home.2/kokoronosato/

◆人形劇フェスティバル 2005年

さっぽろ冬の祭典協賛企画エプロンシアター講習会◆

内 容：エプロンが舞台のエプロンシアター。魅力あふれるお芝居
を観ながら学ぶ。札幌初登場の講習会です。
講師には荒木文子さんを迎えます。

日 時：平成16年12月17日(金)

昼の部 10:00～12:00

夜の部 18:30～20:30

場 所：札幌市教育文化会館 研修室402
(札幌市中央区北1条西13丁目)

受講料：1,500円

連絡先：NPO法人 北海道人形劇協会
TEL.011-753-2858 FAX.011-641-5876

◆「インターネット安全教室」◆

内 容：パソコンや携帯電話を使って、誰でも手軽にインターネッ
トに接続できるようになった今日、思わぬトラブルや犯罪
に巻き込まれる危険性がますます高くなってきています。
ぜひこの機会にこの教室に参加して、インターネットを安
全快適に活用するにはどうしたらいいか、被害にあったと
きにはどうしたらいいかといった情報セキュリティの基礎
知識を身につけてください。

日 時：平成16年12月18日(土)14:00～16:00

場 所：室蘭工業大学N401号室
(室蘭市水元町 27-1)

参加費：無料

連絡先：NPO法人 くるくるネット
TEL&FAX 0143-44-1111
E-mail：toriyama@kuru.2.net

郵便はがき

50円切手
をお貼り
ください

0 6 0 0 0 0 3

札幌市中央区北 3 条西 7 丁目

道庁別館西棟 1 階

北海道立市民活動促進センター 行

お名前

団体名

住 所

TEL.

FAX.

E-mail

(お寄せいただいた情報は情報誌「市民活動情報」の他ホームペ
ージなどで随時紹介します)

*「市民活動情報」は奇数月に発行します。

* 次回の発行は 1 月下旬ですので、12 月中旬までに情報をお寄せく
ださい。

センターインフォメーション

10月23日(土)、札幌で全道フォーラム「NPOの学校祭」を開催しました。

今回の全道フォーラムは、市民活動団体や関係者の交流に重きをおき、また、全国的に取り組まれている廃校利用について考えることをねらいに旧豊水小学校体育館（札幌市中央区南8条西2丁目）で約300名が参加して開催しました。

学校らしく全校集会（講演）はNPO法人ねおす理事長の高木晴光校長先生による「暮らし方・生き方の転換とNPO～いつのまにやらNPO～」の貴重なお話。また、32クラス(団体)のブースが出展し、クラス発表を行った。普段、なかなか交流の機会のないNPOがお互いに顔を合わせ親交を深めることができました。

最後は、NPO法人伝成館まちづくり協議会理事長の飯島実氏の指導により参加者とともに発砲スチロールを使用した「ふしぎヒコーキ」の実演が行われフィナーレを飾りました。



苫小牧で市民活動全道フォーラムを開催します。

日時：平成16年12月12日(日)13:00～16:30

場所：苫小牧市文化交流センター

対象：市民活動をこれから始める人、始めたばかりの人
定員：50名

内容：IIHOE（人と組織と地球のための国際研究所）代表川北秀人氏による講演とワークショップから団体運営の基礎を学ぶフォーラムです。

詳しくは、当センターのホームページをご参照ください。

◎開催日程などは、変更になることがありますので、予めセンターのホームページでご確認ください。

おすすめ BOOKS

『学び・未来・NGO』—NGOに携わるとは何か—

内容：本書は、NGO(非政府組織)の組織と活動について日本で最初に掘り下げた概説書である。まず、「そもそもNGOとは何か」から問いかけから始まり、NGOとはいったい「何のために」「誰のために」存在しているのかを問いつけている。そのうえで、NGOの「政治性」と日本のNGOのうねりを述べ、NGOとNPOの違いになぜこだわるのかを論じている。NGOのオモテとウラが分かりやすく、それぞれのNGOの問題解決に一役買える一冊である。

編集：若井 晋・三好亜矢子・生江 明・池住義憲
発行：新評論
価格：3,360円(本体3,200円+税)



『NPOが北海道を変えた。』 —道州制と市民自治へのチャレンジャー—

内容：北海道のNPO情報誌『NODE』や『えぬびおん』を編集した編集工房NODEのこれまでの活動の集大成と言えるもの。道州制とNPOについての高橋はるみ知事へのインタビューや大学教授などによる座談会、新しいNPOの時代に向けての対論・提言、地域を支えるNPOの42団体の先進事例を紹介。全国のNPO関係者、行政担当者、地域振興に携わる企業、そして地域に生きるすべての市民の必読書である。

編集：編集工房 NODE
発行：インテリジェント・リンク
価格：1,890円(本体1,800円+税)



情報送付ハガキ

掲載希望の情報 ・タイトル	
種別(○で囲む)	・イベント ・勉強会 ・その他()
日 時	月 日() 午前・午後 : ~ :
簡単な内容	
場 所	
参加要件	参加料() 円
そ の 他	

※FAX・Eメールでも情報を受け付けています。

●ご意見・今後取り上げてほしいテーマ等をお書きください。

編集後記

毎号、毎号、締め切りギリギリまで、頭の中で考えて組み立てて、オシりに火がついてから書き始めます。こんな生活と性格を変えたいと思いつつ、今回も特集を書き上げました。少しでも、市民活動の役に立つことが出来れば嬉しいです。(tako)

編集委員：堀越恵子、東田秀美、大石真義、山本真司